



## 学校が地域の拠点で防災基地 ～地域との「顔の見える関係づくり」～



徳島県立那賀高等学校  
養護教諭 西沢 幸恵

### 1 はじめに

徳島県那賀郡那賀町は、平成26・27年8月の台風で那賀川が氾濫し、甚大な被害を受けました。平成26年の水害では、本校も床上浸水の被害にみまわれ、泥の掃き出し、床の張り替え、電気機器の修繕等の後片付けに追われました。これらの経験と、これまで実施してきた防災に関する取組から、生徒の防災・減災に対する関心は高く、高校生として今できることを考え、自主的に学習する姿勢を醸成しつつあります。本校の防災に関する取組では、那賀町地域の特徴を知り、地域住民とのつながりを大切にし、災害発生時に地域防災の担い手として積極的に行動できる「人材」の育成をめざしています。

### 2 活動内容

防災に関する取組では、学校が地域の拠点で防災基地～地域との「顔の見える関係づくり」～をめざして、地域の方々との交流活動を大切に、活動を続けてきました。一昨年よりコロナ禍で、活動内容を再検討し、感染予防対策を行いながら校内でできることを考え、工夫し取り組んでいます。

毎年、実施している防災キャンプでは、国土交通省四国河川整備局那賀川河川事務所より講師を招き、那賀川流域の災害や防災に関する講演と水質調査や流量調査などの実習を実施しています。

那賀町社会福祉協議会主催の小中学生と共



防災プログラム

に学ぶ防災プログラムでは、今年度は、本校防災クラブや那賀町防災士の会の紹介や、南海トラフ巨大地震について学習したり、防災に関するゲームを使って防災について学んだりしました。

また、年間を通じて、那賀町特産の相生晩茶で染めた防災マスク（布マスクを相生晩茶で染めると抗菌・消臭効果が上がり、防災マスクとして適しています。）を作製し、近隣



防災マスクを使った啓発活動

の方々や地域のイベントの来場者へ配付しており、防災意識の向上に向けた啓発活動として実践しています。昨年度は、相生晩茶だけではなく、徳島県名産の藍染め（布マスクを藍で染めると抗菌・消臭だけではなく、防虫効果も上がります。）にも挑戦しました。加えて、6年前から校内の家庭クラブ員と協力して、企業より残反をいただき、卒業生へ向けて防災リュックを手作りしています。今年度も、60枚程度を製作しました。

陸上自衛隊徳島駐屯地で行われた2022防災サマーキャンプに、近隣の中学生や高校生と一緒に参加しました。午前中は、ロープワークと応急テント作り、昼食には自衛隊の戦闘糧食を試食しました。午後からは、地図とコンパスを用いて目的地までの方角と距離を測りました。



陸上自衛隊徳島駐屯地「2022防災サマーキャンプ」

さらに、「いざというときに役立つ防災豆知識」という動画を作成し、本校のホームページで紹介しています。地震が発生した際の対応や防災リュックの中身などを生徒の言葉で伝えています。さらに、英語版の動画を製作して、防災についての活動をより広く多くの方々に啓発しています。



防災豆知識動画

### 3 まとめ

洪水で被災した経験を生かし、その原因や解決方法を探究するために那賀川水系への理解を深め、災害に強い街づくりをめざし学校が安心して避難できる地域の防災基地となるよう、様々な視点から活動しています。そして、ここ数年はこれまで実施していた内容に加えて、生徒たちが発案した活動を取り入れており、防災クラブの取組が充実してきています。どの活動にも生徒たちは自主的に参加し、活動中においても積極的に行動する姿が見られます。取組を重ねていくにつれて、「次はこんなことをしてみたら良いのではないか。」と前向きな意見を伝えてくるようになりました。防災マスクの作製は生徒発案で作られ、藍染めにも挑戦してみたいとの声が上がったため、活動を広げました。高校生として、地域に向けて自分たちができることを率先して考え、前向きに取り組む姿には目を見張るものがあり、将来の防災リーダーとして活躍できる「人財」の育成の一助となっています。今後も災害は発生すると予想されます。災害時に自分や大切な人の命を守るために、災害を忘れず、平日頃からの災害への備えが大切で、有事の際には、お互いに協力する姿勢が重要であり、それらに対応できる「人財」の育成に努めていきたいと思えます。